

国語(現代文) 東北大学 文学部 教育学部 法学部 経済学部(文系) (前期) 1/4

<総括>

| | | | | | | |
|-----|-----|-------|-------|----|------|------|
| 出題数 | 現代文 | 2題・古文 | 1題・漢文 | 1題 | 試験時間 | 150分 |
|-----|-----|-------|-------|----|------|------|

全体の構成を把握し、その進行に応じて問われる基本問題と、全体の論旨に立つて解答する最後の問題。第一問の典型である。

<本文分析>

| | |
|--------------|-------------------------------|
| 大問番号 | 一 |
| 出典 (作者) | 「空気に触れる眼——イリガライと触覚的視覚」(横田祐美子) |
| 頻出度合 ・的中等 | それほど見かけない。 |
| 分量 前年比較 | 分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) |
| 難易 前年比較 | 難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化) |

<大問分析>

| 大問 | ジャンル | 設問 | 設問形式 | 難易度 | コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど) |
|----|------|--------------------------------------|------------------------------|---------------------------|--|
| 一 | 評論 | 問(一) 問(二) 問(三) 問(四) 問(五) | 書き取り 記述 記述 記述 記述 | 標準 標準 やや難 難 難 | 例年より一問少ない。 外在的な文化相互の「差異」があってはじめて当の文化の「同一性」が語られる。 「男性文化」が普遍的なものだとすると、「女性文化」は「文化未満」となり、「異文化」自体想定されなくなる。 「自己のなかで他者が成長していくことを容認する」。 「女性的な文化」はどこに、どのように「隠れて」いたのか。 |

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

他者の思考を丁寧にたどりぬくトレーニングが欠かせない。精読に基づいた要約作成を勧めたい。

国語(現代文) 東北大学 文学部 教育学部 法学部 経済学部(文系) (前期) 2/4

<総括>

| | | | | | | |
|-----|-----|-------|-------|----|------|------|
| 出題数 | 現代文 | 2題・古文 | 1題・漢文 | 1題 | 試験時間 | 150分 |
|-----|-----|-------|-------|----|------|------|

登場人物の言動からその内面—思考や心情を読み取る、小説に典型的な問題が基本となっている。

<本文分析>

| | |
|--------------|---------------------------|
| 大問番号 | 二 |
| 出典 (作者) | 「玉呑み人形」(林真理子) |
| 頻出度合 ・的中等 | それほど見かけない。 |
| 分量 前年比較 | 分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) |
| 難易 前年比較 | 難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化) |

<大問分析>

| 大問 | ジャンル | 設問 | 設問形式 | 難易度 | コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど) |
|----|------|----------------------|----------------|---------------|--|
| 二 | 小説 | 問(一) 問(二) 問(三) | 記述 記述 記述 | 標準 標準 難 | 「文脈に即して」に留意。 まずは「祖母」の見解と「母」の行動の間の矛盾。 「槇子」は「父」のことがよくわからないという前提がある。そこで「女たちの午睡の輪」にいる意味がわかる。 「父」の変化を整理する。 現実の不満、状況を「不運」とする人々。「父」もひと山当てようとしている。 |
| | | 問(四) 問(五) | 記述 記述 | 標準 難 | |

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

場面ごとの理解だけでなく、全体を貫いているモチーフを見抜く。それが小説を読む楽しみでもある。楽しみながら小説を！

国語(古文) 東北大学 文学部 教育学部 法学部 経済学部(文系) (前期) 3/4

<総括>

| | | |
|-----|--------------------|-----------|
| 出題数 | 現代文 2題・古文 1題・漢文 1題 | 試験時間 150分 |
|-----|--------------------|-----------|

本文は本格的な評論文(歌論)で、内容を正確に把握することが難しい。
設問も内容の正確な理解をもとに答えさせるもので、国語力が問われる難問。
ただし、深い理解と記述力、思考力を問う良問。

<本文分析>

| | |
|--------------|--------------------------|
| 大問番号 | 三 |
| 出典 (作者) | 『排蘆小船』(本居宣長) |
| 頻出度合 ・的中等 | |
| 分量 前年比較 | 分量(減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) |
| 難易 前年比較 | 難易(易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化) |

<大問分析>

| 大問 | ジャンル | 設問 | 設問形式 | 難易度 | コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど) |
|----|------|------|------|-----|---|
| 三 | 評論 | 問(一) | 記述 | 易 | 比較的平易な語句の意味を問う問題。 前後の文脈から内容を考える問題。「分量」がポイント。 「不易」「本然」等の単語と「べし」の意味などに留意して解答する。 「和歌の功德」と「我が性情もよく化する」の内容を考えて記述する。 本文の前半・中段・後半の内容を正確に読み取り過不足なくまとめる。 |
| | | 問(二) | 記述 | 標準 | |
| | | 問(三) | 記述 | 標準 | |
| | | 問(四) | 記述 | やや難 | |
| | | 問(五) | 記述 | 難 | |

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

単語・文法の知識の整理を行い、その力をもとに文章を正確に読む力を身につけ、さらに正確に読み解いた文章の内容を正しく理解して記述する力を身につける学習を進めることが必要。

国語(漢文) 東北大学 文学部 教育学部 法学部 経済学部(文系) (前期) 4/4

<総括>

| | | |
|-----|--------------------|-----------|
| 出題数 | 現代文 2題・古文 1題・漢文 1題 | 試験時間 150分 |
|-----|--------------------|-----------|

本文内容：張齊賢が貧しい書生であった頃、宿で盗賊に遭遇したが恐れず礼を尽くし、彼らを英雄で自分と同類の士と認めた。そして豪快に飲食して小節に拘らない度量を示したため、盗賊たちはその非凡さに驚き、将来宰相となる人物と見抜いて金品を贈った。この話は、張齊賢の大人物ぶりと、後に大成する器量を備えていたことを示す逸話である。

設問：昨年度に比べて、説明を求める問題が一題減少し、その代わりに口語訳の問題が増えた。ここ数年、字数制限は合計100字程度の記述が要求されていたが、今年は60字に減少した。

<本文分析>

| | |
|--------------|--|
| 大問番号 | 四 |
| 出典 (作者) | 司馬光『涑水記聞』 |
| 頻出度合 ・的中等 | 入試問題ではよく用いられる出典である。なお、2003年度の東大入試オープンで用いられた素材と同一箇所である。 |
| 分量 前年比較 | 分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) |
| 難易 前年比較 | 難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化) |

<大問分析>

| 大問 | ジャンル | 設問 | 設問形式 | 難易度 | コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど) |
|----|------|----|------|-----|--|
| 四 | 随筆 | 問一 | 意味 | 標準 | (1)「布衣」は基礎的知識、(2)は「逆旅」がヒント、(3)は多義語の整理が必要である。 |
| | | 問二 | 書き下し | 標準 | 多義語、接続に注意する必要がある。 |
| | | 問三 | 口語訳 | 標準 | 口語訳なので「賤子」を一人称、「諸大夫」を二人称敬称として適切に表現する必要がある。 |
| | | 問四 | 口語訳 | 標準 | 「為」を受身形で理解する必要がある。 |
| | | 問五 | 理由説明 | 標準 | 傍線部以前の張齊賢の振る舞いと、傍線部直後を踏まえてまとめる必要がある。 |

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

特定の出典にこだわらず、多様なジャンルに対応できるような総合的学力を養う必要がある点は例年と変わらない。いずれの問題でも着実に得点するには、重要語や句形に対する幅広い知識と理解を身に付けるとともに、文脈に即した正確な表現力や制限字数内で過不足なく内容をまとめあげる記述力も養っていく必要がある。

なお、「何能不拘小節如此也」については、「此くの如きや」とするが、ここは反語形として「此くの如きならんや」と訓まなければ文意が取りにくいところであろう。